

折々の記 No291：巨星墜つ！

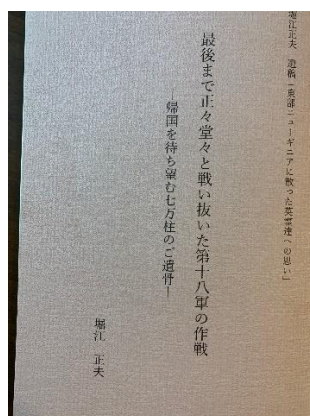
(令和4年6月15日記)

本日、渋谷セルリアンタワーで举行された故堀江正夫氏を偲ぶ会に、大東亜慰霊協を代表して参列した。弊協議会も堀江先生には多大なる御薫陶・御指導を受けており、向後その警咳に接する機会なきを悲しく思う。

直接的にご指導を受ける機会はなく、ただ遠くから仰ぎ見る高峰の如き存在であった。本日の偲ぶ会における6名の方の追悼の辞、御子息やご令嬢の挨拶、更にはビデオを視聴しての所見を幾つか記す。

#### 【堀江正夫氏略歴】

大正4年6月 新潟県生まれ、東京陸幼、陸士50期、北支出征、陸大入校、S18年 51師団参謀(ニューギニア)、S27警察予備隊入隊、43普通科連隊長、西部方面総監 S52～参議院議員(2期) 2022/3/20 逝去



- 1 大先輩の人徳が偲ばれた。常に穏やかで、接する者全て、勿論家族にも有難う、有難うと感謝の念を述べておられた由。接する者全ての人から愛され敬愛されていた。人との縁、絆を非常に大事にしておられたのだとの感を強くした。
- 2 健康で長寿(享年106歳)の秘訣は、ご家族のつくる食事を家族と共に食すること、独特のリハビリ体操、ウォーキング(1.5万歩、最近では家の中で4千歩)の励行、読書、そして執筆や講演活動、6歳の曾孫さんと106歳の先生が深い愛情で結ばれていたこと等、10年来のお医者さんが述べておられた「家族愛」が大きかったのだろうと思う。更に、使命感、或いは情熱というものが絶対不可欠なのだ。
- 3 軍人・自衛官を通じて、常に部下を気遣い、何を為すべきかを考究して確行された。部下想い、部隊想い、そしてその家族にまで想いを馳せる奥の深さ。
- 4 ニューギニア戦線、戦没将兵のご遺骨に帰還に関する真摯かつ積極的な活動には感服する。遺骨収容事業について政府その他に積極的に働きかけたその情熱は比類なきものだ。
- 5 逝去される直前まで推敲されていた遺稿「東部ニューギニアに散った英霊達への思い」には先生の想いが凝縮されている。ご家族によれば、逝去される半年ほど前から、ニューギニアでの戦いの壮絶さ、如何に立派に戦ったか、そして遺骨収集の現状を知って貰うべく、来る日も来る日も執筆に没頭されたという。
- 6 先生の経験によれば、日本陸軍の規律は厳正で、現地の住民とも平穏裡に共存していたのは紛れもない事実だと。パプアニューギニア友好協会を設立され、その友好に尽力されたことからそれは伺える。
- 7 真の武士、軍人そして日本人、それこそが堀江正夫だった。
- 8 我等の使命は先生の御遺志を継承し、その実現を期すことなのだ。

(了)